

マタイの福音書 第7章 18節

「良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。」

朝夕の寒さが一段と増している。カレンダーでは初冬が過ぎているから当然のことである。それでも小春日和のときも時々ある。そんなときにはガラス戸を大きく開き、ベランダにある植物を愛でる。すがすがしい空気の下、青々とした葉をのばし、先端に蕾を付けている薔薇が目に入る。幹を見ても、葉を見ても、枝ぶりを見ても、みな生きいきとしている。良い木であることは確かそうだ。それを支えている根は土の中。やがて寒風のなかで開く花が楽しみだ。

それに比して、悪い木は良い実をならせることは出来ない。しかし、自然界に悪い木などあるだろうか。木そのものは自然の一部として全体に貢献しているはずだ。正直、悪い木に巡り合ったことは無い。もしかしたら、注意しなくてはならない樹木はあるかもしれない。でも、悪意を持つ木など見たこともない。

良い木、悪い木を譬えとして、人を語る。人には、良いところもあれば悪いところもある。実を見れば、人のところが、人柄がわかる。そして、人のところをわかるのは人ではなく、この言葉を語られるお方だ。

2021年11月12日